

ふれあいの里グループホームすつつ
(別紙4-1)

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0192100048		
法人名	日総ふれあいケアサービス株式会社		
事業所名	ふれあいの里 グループホームすつつ		
所在地	寿都郡寿都町新栄町166-8		
自己評価作成日	令和4年2月16日	評価結果市町村受理日	令和4年4月11日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_022_kan=true&JigyosyoCd=0192100048-00&ServiceCd=320&Type=search
-------------	---

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

寿都湾が眼下に見える自然豊かな閑静な環境の中に位置しています。利用者様が住み慣れた地域で安心して生活できるように支援しています。今はコロナ禍で地域交流出来ず、面会規制があるため、限られた中での楽しみを提供できるようにレクや行事を工夫して提供しています。協力医療機関による定期的な訪問診察、健康管理を受け、相談、助言をいただき早期受診対応や、24時間連絡できる体制を取り連携を図っています。
--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 サンシャイン
所在地	札幌市中央区北5条西6丁目第2道通ビル9F
訪問調査日	令和4年3月22日

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

寿都湾が眼下に見渡せる高台の自然豊かな環境にある2階建て鉄筋コンクリート造りの建物で、小規模多機能事業所が併設された1ユニットのグループホームである。1階の「共生ホール」を利用して地域交流を行うことができ、駐車場が広く家族が訪問しやすい環境が整っている。運営法人は北海道内でサービス付き高齢者住宅をはじめ、介護付き有料老人ホーム、認知症高齢者グループホームなど40施設を運営しており、法人研修や各種の統一書式をはじめ、ネットワークを利用した多様な支援体制が整っている。事業所の中心に広いリビングルームがあり、職員は台所から調理をしながら利用者を見守っている。共有空間は季節ごとに飾り付けがされており、つくしや桜の壁飾りは華やかな雰囲気を感じられ、利用者の喜ぶ各種のゲームやアクティビティの用具などを揃えている。新たに着任した管理者は行政と密接に連携をとり、職員と一丸となり収束の見えない感染症流行を見据えて、感染対策を徹底したなかで、どのような事で地域に根差した関係が継続できるかを模索している。その中でも、数名ずつに分けて季節の風景を見るためのドライブや、選挙の投票に同行するなど、利用者に寄り添った支援を行っている。面会制限期間中も、利用者の様子を連絡するなど、家族からも信頼されている事業所である。
--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅰ.理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	住み慣れた地域で、個々に合わせた生活の支援をできるよう理念に基づいて職員間で共有するよう努めています。	理念はパンフレットと事業所の目につきやすい玄関内に掲示している。地域の中で利用者が「そのひとらしい生活」を送れるよう理念のとおり利用者に寄り添う介護を実践している。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	昨年に引き続きに新型コロナウイルス感染予防のため、町の行事、子供たちとのふれあい・交流は中止しております。	感染症対策としての自粛期間のため外部との接触を控えているが、地域振興券を利用して地域の馴染みの飲食店から出前を利用するなどの交流をしている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	新型コロナウイルスの影響もあり、なかなか地域の方に向けて取り組みが出来ておらず、ブログや広報を利用しいかしていきたいと考えております。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	意見や要望等取り入れ、より良いサービス提供できるよう努めています。ご家族様には個別に議事録と広報を送付しております。	運営推進会議は、感染対策として家族を除く寿都町の民生委員と地域包括支援センター、社会福祉協議会、居宅事業所の職員の参加で開催している。議事録は家族へ郵送している。	会議では事業所の報告以外にも、テーマを盛り込み意見交換をすることや、参加できない家族等に事前に意見や要望を聞き、双方向の会議となるような運営に期待したい。
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	必要に応じて町担当者と連絡を取り合い、情報提供やケースに応じた相談、運営取り組みなどをし協力関係を築けるよう努めています。	寿都町からは運営推進会議に町職員が参加しているほか、地域ケア会議などで情報交換をしている。また、寄付金で掃除機を購入するなど協力関係を築いている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束しないケアに取り組んでいます。日々行っているケアは身体拘束にならないか職員間で話し合いをしています。	身体拘束委員会、不適切ケア委員会を開催し、それらに係る研修も行っている、利用者への言葉かけ等を含め、不適切なケアにならないよう配慮をしながら、日々の業務を行っている。	身体拘束に係る委員会記録と研修記録の整備をすることに期待したい。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	不適切ケアの勉強会を開催し、職員間で話し合いをし、虐待に繋がるケアをしないよう努めています。		

ふれあいの里グループホームすつつ

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性に関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見人制度を利用されている方がいますが、再度学ぶ機会を設けそれらを活用できるよう支援していきたい。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	疑問点や質問事項についてその場ですぐに対応できない時は少しお時間いただきますが本社などに確認してお答えするよう努めています。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	コロナ禍でなかなか面会できず、電話やお手紙などで状況説明など努めてはいますが不足面が多く今後の課題であると思っております。	隔月発行の通信で行事や食事風景の写真と、家族宛てに利用者の様子を書いて郵送している。体調の変化や気になる事があれば都度、電話で連絡をしており、家族の意見はノートに記録し職員が周知している。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	会議以外でもその時にでた改善点や意見、提案を話し合い反映できるよう努めています。	管理者が日常的に職員の意見を聞いている。就業時間の増加による業務増を職員の提案で全体の流れや分担を再度見直し改善した事例もあり、意見は運営に反映されている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	R.3より107日に移行し職員の処遇改善を行ってきたが上手く起動出来ておらず、日々意見など出し合い業務改善や職場環境を整備中です。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	コロナ禍であることや地域柄なかなか外部の研修には参加出来ていないことや、内部研修のみでの狭い範囲での知識になっていることが多いことが課題。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	コロナウイルス感染防止をしつつ、制限ある中で地域ケア会議などで他事業所や診療所などから情報交換、連携を図るように努めています。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	家族様や関係機関担当者と一緒に面談し、困りごとなどの生活情報を聞き安心の確保ができるよう努めています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族様の不安事・要望等を傾聴し、いつでも相談しながら支援できるように関係作りに努めています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご家族様、ご本人様と話をしながら、事業所の取り組み、支援の内容を説明し状況に合わせ、他のサービス利用も含めた対応に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	生活歴をもとに職員間で共有し、出来ること出来ないことを見極め日々支援するように努めています。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	新型コロナウイルス感染防止のため面会規制中では思うように面会できない現状ですが電話などで情報共有を図るように努めています。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	新型コロナウイルス感染防止のため面会規制中では思うように交流出来ない状況で途切れがちになっていることが課題です。	感染症流行による、まん延防止等重点措置期間が終了した時期には、玄関内で感染症対策を徹底した面会を行っている。選挙の投票に利用者が行くための外出に同行支援をしている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	レクリエーションなどで職員が間に入りコミュニケーションを図り、利用者同士円滑に生活出来るような支援に努めています。		

ふれあいの里グループホームすつつ

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	新型コロナウイルス感染防止のため面会などは規制されていますが、必要時ご家族様から相談に応じられるよう努めています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	一人ひとりの思いや希望を傾聴し職員間で共有し、困難な場合は表情や言葉などで汲み取るよう努め話し合いをし支援できるよう努めています。	半数程度の利用者は言葉で意向の確認が出来るため、日々の会話で聞き取りをしている。発語が困難な場合は本人の訴えを観察し、諦めずに表情や仕草を確認して思いを検討している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご家族様から生活歴等情報を伺ったり、ご本人様との会話の中で情報を得て職員間で共有しています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	利用者の日々状態観察を行いちょっとした変化に気づけるように職員間で話し合いをし共有するよう努めている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	普段と違う変化がみえたり、日々のケアで疑問などが出た際は意見やアイデアを職員間で共有し現状に即したプランを作成するように努めている。	介護ノートや連絡帳、生活支援記録を活用し、毎月のカンファレンスで話し合い、利用者ごと6か月の介護計画を作成している。計画目標に沿った支援内容を、わかりやすく記録ができるように検討している。	目標の達成度などを確認するためのモニタリングシートを活用し、計画目標を記録するなど、介護計画作成の一連の流れを再度検討する事を期待したい。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	会議の他、気づいたこと等、その都度話し合い、記録に記入したり介護ノートに記入し見直すよう努めている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者の言動や行動、心理面などに変化が見られた際には職員間で共有し家族様に状況説明をし、ニーズに合わせた対応をするように努めています。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	新型コロナウイルス感染防止のため外食やドライブが出来ないため、地域振興券を使用し、馴染みの飲食店などから出前やお弁当をとり楽しさを提供しています。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医の協力医療機関は訪問診察を月2回にわけて受診しています。必要時は都度受診対応しています。体調などの変化時は治療方針を主治医、家族様とICを行い対応しています。	毎週訪問し健康観察を行っている看護師が、健康管理記録を作成している。診療内容はパソコン内の生活支援記録に定期受診、健康記録の項目を入力している。	

ふれあいの里グループホームすつつ

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	月4回の健康管理を実施しており、都度相談や情報の共有を図っています。また、必要時、緊急時、特変時は受診しています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入退院時は医師からの話をご家族様と話し合い、情報を共有しています。コロナ禍で面会規制中のため面会は頻回に出来ないため、電話や訪問診察時などに情報共有しています。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時に重度化した場合に関わる指針に沿って事業所で出来る対応についての説明をし同意を得ています。長期的に療養が必要な場合は主治医、家族、事業所間で話し合い他施設などへの転院・転居の支援を行っています。	利用開始時に「ご利用者が重度化した場合の対応に係る指針」を説明し同意を得ている。終末期が近いと医師が判断した場合は、関係者間で話し合い、医療機関への移行を含めた支援をしている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	事故防止マニュアルや緊急時のマニュアルの整備をし対応できるように努めていますが訓練までは実施できていません。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	防災マニュアルを整備はしましたが避難訓練不足が課題です。災害に備えた食品、水、ストーブ、カセットコンロなどの備蓄品を準備しています。	災害備蓄品や避難用の物資を用意してある。防災マニュアルを活用した訓練の計画をしている。自然災害発生時における業務継続計画を法人にて策定準備をしている。	年度計画を立て、自然災害を想定した定期的な訓練の実現に期待したい。

Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	虐待になるような言葉がけをしないよう、またプライバシーを損ねないような言葉がけをするよう心掛けています。	内部研修で不適切な言葉遣いについて確認し、尊重した対応を話し合っている。記録類はタブレット端末を使用し、個人情報を適切に管理している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	遠慮いがちな方もいらっしゃるため、声掛けをしたり引き出せるよう工夫しています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	日々コミュニケーションをとりながら、一人一人のペースに沿った支援ができるよう努めています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	コロナ禍で外出が制限されているため、お正月や敬老会等のお祝い事の行事の日にオシャレをしていただいたり、入浴時の着替えの支度ができる方はご自分で準備していただいています。		

ふれあいの里グループホームすつつ

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	盛り付けを手伝ってもらったり、食器拭きを手伝ってもらっています。手作りおやつは一緒に作って楽しんでいます。	献立をもとに食事を提供し、行事には天井や幕の内弁当を取り寄せたり、たこ焼きパーティーなどを楽しんでいる。毎月のおやつ作りでは桜餅、おはぎ、みたらし団子などで季節感を味わっている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個人の摂取状況、嚥下状態に合わせ形態(おかゆや刻みにして)を変え提供しています。一日の摂取量は記録に落としています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後口腔ケアに努め、不十分な方には見守りや介助をし口腔内の清潔を保っています。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄版を活用し個人に合わせた誘導や声掛けを行っています。	トイレでの排泄に向けて、日中は全員トイレで行い、夜間も可能な限りトイレに誘導し自立に向けて取り組んでいる。不適切ケア委員会で排泄について話し合い、尊厳に配慮した対応ができるよう確認している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄版を活用し排便チェックを行い、オリゴ糖や乳酸飲料の提供をしています。それでも困難な時は診療所の先生に相談し内服薬を調整し対応しています。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	現状希望の時間帯に入浴は出来ていないため、入浴時は気持ちよくはいただこう努めています。	日曜日を除き、午前、午後の時間帯に一人週2回の入浴を支援している。体調や皮膚状態を見て清拭を行い心身の心地よさが得られるように配慮している。ほとんどの利用者が浴槽に浸かり、職員と会話を楽しんで入っている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	明かりや室温などに配慮し安眠できるよう努めています。昼寝など体調をみて個々に合わせていただいています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個人ファイルに薬情をファイリングし周知徹底を心掛けている。また変更したときは必ず申し送りやノートに記入し異常等変化があれば記録に落とし共有できるよう努めています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	誕生会や季節に沿った行事を行い利用者様の好みや楽しみを取り入れたり、レクリエーションを行い気分転換を図れるよう努めています。		

ふれあいの里グループホームすつつ

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナ禍で面会や外出制限をしており、利用者様には不便な生活になっているため、飲食店から出前をとり、ちょっとした楽しみを提供しています。	感染症流行の状況を見て、玄関前で散歩をしたり、3回に分けドライブで紅葉見学を楽しんでいる。検査などの受診には職員が同行したり、また選挙の投票で利用者の希望に沿って行くこともあり、その際に車窓から景色を眺めている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	当ホームでは基本的にお小遣いは預かっていないため、家族様に了承いただき、立替で購入しています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族様からのプレゼントが届いた時や家族様からの電話が来た時にお話する機会を設けたり、知人の方からきたお手紙の返事を代筆して送ったりしています。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節によって飾り付けを変え、四季を感じていただいたり、ダイニングの窓から季節を感じて頂いたりしています。	居間は事務カウンターや台所と一体的な造りで、窓から陽光が入り開放的である。広いソファ席でテレビを観たり、団欒が楽しめる居心地のよい空間になっている。壁には手作りの日めくりカレンダーや菜の花、たんぽぽなど春らしい装飾品が飾られている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	一人の居場所はなかなか確保できませんが、食席にて過ごしていただいたり、ソファの配置や座る位置の工夫をし居心地よく過ごせるよう努めています。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	馴染みのものを何点か持ってきていただき、その方が安全かつ居心地がよいように工夫しています。また状況に合わせて家族やご本人に了承いただき模様替えをしたりしています。	室内外にエアコンが取り付けられており、居心地よい環境となっている。室内にはテーブルなどの家具類や小物類が持ち込まれている。テレビや湿度計がある居室もあり、家族の写真などが飾られている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室迷う方には扉に名前を付けたり、トイレには張り紙をして分かるようにしています。		

目標達成計画

事業所名 ふれあいの里グループホームすつつ

作成日：令和 4年 4月 8日

市町村受理日：令和 4年 4月 11日

【目標達成計画】

優先 順位	項目 番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に 要する期間
1	6	身体拘束に係る委員会記録と研修記録の整備をすることに期待したい。	運営の規定に応じた対応を滞りなく実施できる体制を整備し、研修や委員会の開催を遂行する。	①3か月毎に一回の委員会の実施、並びに、半期に一回の研修の実施に加え、新入社員を対象とした研修を体系的に実施する。 ②研修等の機会を通じて、身体拘束の廃止についての意識向上やケア内容の向上が図られるようOJTを実施する。	3か月
2	26	目標達成度などを確認するためのモニタリングシートを活用し、計画目標を記録するなど介護計画作成の一連の流れを再検討する事を期待したい。	介護計画等の一連のケアマネジメント書式を整備して、ケアプラン等に基づいた科学的な介護の実践ができるようになる。	①ケアプランなどの整備を実施し、ケアプランに基づいたサービス提供に取り組む。 ②月に一回程度の職員会議等の機会を通じて、入居者様の状態を確認して、生活状況に応じたケアの実践に取り組む。	6か月
3	4	会議では事業所の報告以外でも、テーマを盛り込み意見交換をすることや、参加できない家族等に事前に意見や要望を聞き、双方向の会議となるような運営に期待したい。	介護職員との定期面談や職員会議等の定期的な実施を行い、ケア内容の向上を図る。	①面談の機会や会議開催を常態化できるよう年間予定などに組み込み実施する。	3か月
4	35	年度計画を立て、自然災害を想定した定期的な訓練の実施に期待したい。	定期的な防災訓練を実施し、入居者の安全で安心な生活を守る。	①定期的な防災訓練を実施できるよう年間事業計画などへ予定を組み込み定期的な訓練を実施する。 ②運営推進会議などで、話題に上げ、地域との連携が担保された中で、訓練等が遂行できるように対応する。	6か月
5					

注1)項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入して下さい。

注2)項目数が足りない場合は、行を追加して下さい。